



保育かながわ

発行所
 横浜市神奈川区沢渡4の2
 一般社団法人
 神奈川県保育会
 発行人
 萩原敬三
 題字
 故内山岩太郎筆

一般社団法人神奈川県保育会 平成二十六年年度 三月定時総会

平成二十七年三月五日神奈川県社会福祉会館に於いて

「平成二十六年度一般社団法人神奈川県保育会総会」が開催されました。議事については、第一号議案は、「一般社団法人神奈川県保育会監事（寒川町旭保育園中島光子氏）の選任について」、第二号議案は、「平成二十七年年度一般社団法人神奈川県保育会事業計画案及び予算案について」行われました。

平成二十七年より、子ども・子育て支援新制度が施行され、保育を取り巻く環境が大きな転換期を向かえ、保育所等に求められる使命と役割は多様化し、時代の要請や新しい制度に対応でき、そのニーズに答えていくべく神奈川県保育会としてあるべき姿を模索しながら、国や神奈川県、各市町村、神奈川県保育士会、他団体等との密接な連携のもの

と、積極的な事業運営を推進していくこと、また、国や神奈川県、県内各市町村等に対し、情報収集を行い、必要に応じて神奈川県保育会として意見表明や要望活動を積極的

に実施していくという事業計画案が出されました。神奈川県保育会の組織についても「子ども・子育て支援新制度」の推移を見守りつつ

会員資格、会費のあり方などの検討や併せて新しい組織のあり方についても検討を行っていくこととし、また、保育会組織、「民間保育部会（民間園長会）」、「公立保育園部会（公立園長会）」、「青年部会」、「保育士部会」のそれぞれの機能に応じた課題を適宜検討・実施していく予定です。企画運営委員会各種委員会

にて積極的な運営が期待されます。平成二十七年の事業

計画案の中で平成二十八年度は関東ブロック保育協議会等が主催する「第五十七回関東ブロック保育研究大会」が

神奈川県で開催される予定のため、「関東ブロック保育研究大会運営委員会」を関係機関とともに設置し、滞りなく盛大に行われるよう準備作業を始めていくというこ

とで、それについての要綱案も出され、着々と進めていくとのことです。第一号議案の「一般社団法人神奈川県保育会監事（寒川町旭保育園中島光子氏）の選任について」、また、第二号議案の「平成二十七年年度一般社団法人神奈川県保育会事業計画案及び予算案について」は、どちらについても質疑はなく、

園計一六六園の過半数の票を得て可決し、承認を得られました。議事進行がスムーズに運び、無事に議事成立にいたり、平成二十七年新年度のスタートを切る運びとなりました。平成二十七年についてもさらなる発展を願い終了となりました。

一般社団法人神奈川県保育会 定時総会の開催

平成27年4月25日（土）
 午前11時10分～
 平成26年度一般社団法人神奈川県保育会事業報告及び決算について
 神奈川県社会福祉会館
 第1・2研修室

平成 27 年度 月間行事予定表

月	県保育会の行事予定	関係団体の主要行事
4	○表彰選考委員会(7日/火) ○26年度監査(7日/火) ○企画運営委員会(9日/木) ○第49回保育事業大会(25日/土) ○定時総会(25日/土)	○県社協新任保育士激励会(11日/土)
5	○企画運営委員会(21日/木)	○全保協協議員総会(15日/金)
6	○全保協会長表彰選考委員会 ○企画運営委員会(11日/木)	○関東ブロック会長会議(4～5日)静岡県
7	○保育園利用者相談室研修会 ○企画運営委員会(23日/木) ○県市町村児童福祉主管課長と委員との 連絡協議会(23日/木) ○研修会	○関東ブロック保育研究大会(2～3日)静岡県
8		○公立保育所等トップセミナー(28～29日)
9	○予算対策協力金活動開始 ○企画運営委員会(17日/木) ○研修会 ○「保育かながわ」84号発行	○関東ブロック保育事業連絡協議会 (10～11日)横浜市
10	○企画運営委員会(8日/木)	○全国保育士会研究大会(20～23日)千葉市
11	○研修会	○全国保育研究大会(11～13日)山口県 ○日保協会全国保育所・所長研修会 (18～20日)横浜市
12	○企画運営委員会(4日/金) ○保育の日前夜祭(4日/金) ○保育園利用者相談室研修会	○神奈川県保育の日(5日/土) ○全国保育組織正副会長等会議(10～11日)
1	○企画運営委員会(14日/木) ○新年懇親会(14日/木) ○保育所食育研修会	
2	○企画運営委員会(18日/木) ○研修会	○全保協保育所長集中講座 ○関ブロ保育士の専門性を高める研修会(中旬)
3	○企画運営委員会(8日/火) ○定時総会(8日/火) ○「保育かながわ」85号発行	○全保協協議員総会(16日/水)

平成27年度一般社団法人神奈川県保育会予算

(自)平成27年4月1日～(至)平成28年3月31日

[収入の部]

(単位:円)

項 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘 要
会費	7,610,000	7,540,000	70,000	
会員会費	5,430,000	5,400,000	30,000	会員300園
相談室会費	1,680,000	1,640,000	40,000	
準会員会費	500,000	500,000	0	神奈川県保育士会
補助金	3,627,000	3,822,000	△195,000	
県補助金	2,577,000	2,772,000	△195,000	事業費
県社協補助金	550,000	550,000	0	
共同募金補助金	500,000	500,000	0	
事業収入	2,200,000	2,700,000	△500,000	
諸研修会収入	1,000,000	1,500,000	△500,000	評価、メンタルヘルス、制度、危機管理、食育等
行事収入	1,200,000	1,200,000	0	保育の日前夜祭、市町との保育連絡会
協力金収入	1,850,000	1,850,000	0	
予対協力金収入	1,500,000	1,500,000	0	
保険会社協力収入	350,000	350,000	0	A I U
雑収入	451,000	454,000	△3,000	
雑収入	450,000	450,000	0	図書販売、全保協組織推進費等
預金利子	1,000	4,000	△3,000	
取崩収入	600,000	0	600,000	
積立金取崩収入	600,000	0	600,000	
繰越金	650,000	700,000	△50,000	
繰越金	650,000	700,000	△50,000	
合 計	16,988,000	17,066,000	△78,000	

[支出の部]

項 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘 要
管理費	7,020,000	6,880,000	140,000	
人件費	6,450,000	6,250,000	200,000	給与、手当、法定福利費、アルバイト
旅 費	20,000	20,000	0	
福利厚生費	50,000	40,000	10,000	傷害保険(団体の管理下参加委員)
消耗品費	180,000	250,000	△70,000	コピー・印刷費・事務用品等
通信・運搬費	150,000	150,000	0	
慶弔費	150,000	150,000	0	
雑費	20,000	20,000	0	
総務費	870,000	870,000	0	
総会費	60,000	60,000	0	総会資料等
会議費	200,000	200,000	0	企画運営委員会・各部会・理事会等
委員会旅費	450,000	450,000	0	
連絡調整費	160,000	160,000	0	関係団体祝金等
事業費	3,730,000	4,130,000	△400,000	
県大会費	700,000	600,000	100,000	県保育事業大会・分科会資料等
関プロ全国大会費	350,000	350,000	0	関プロ派遣・連絡協議会等
諸行事費	1,300,000	1,300,000	0	保育の日前夜祭、市町との保育連絡会
相談室運営費	1,100,000	1,600,000	△500,000	
会報発行費	180,000	180,000	0	保育かながわ84・85号
ホームページ経費	100,000	100,000	0	
研修・研究費	1,350,000	1,600,000	△250,000	
研修費	1,300,000	1,500,000	△200,000	メンタルヘルス、制度、危機管理、食育等
調査研究費	50,000	100,000	△50,000	
活動費	400,000	450,000	△50,000	
予対活動費	350,000	350,000	0	全保協納入等
専門委員会活動費	50,000	100,000	△50,000	
関プロ開催準備費	600,000	0	600,000	
関プロ開催準備費	600,000	0	600,000	
負担金・補助	3,004,000	3,103,000	△99,000	
全保協・関プロ	1,550,000	1,550,000	0	
県社協	250,000	250,000	0	
事務所使用料	54,000	53,000	1,000	
保育のつどい	50,000	50,000	0	
保育士会	1,100,000	1,200,000	△100,000	
予備費	14,000	33,000	△19,000	
予備費	14,000	33,000	△19,000	
合 計	16,988,000	17,066,000	△78,000	

第五十八回全国保育研究大会秋田大会

早朝の羽田空港から雨の

中を飛び立ちました。機窓からは真つ白な世界しか映し出されずにしばらくはその様な状態が続きましたが、視界が開けてきた時には、もう既に日本海が目前に広がっていました。海に出て右に半周ほど旋回をすると遠くに男鹿半島が現れ、小一時間の空の旅も終了しました。



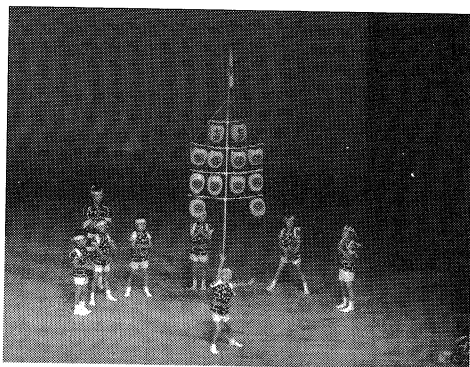
現地です最初にお出迎えをしてくれたのは、あの有名な

「なまはげ」でした。

連絡バスに乗り換え、一路市内へ。途中の景色から、何処か違うところへ連れて行かれるのではとの不安もありましたが、一時間弱で無事にターミナル駅に到着。朝九時過ぎの秋田駅は、さほど寒くもなく、朝日が眩しく感じました。

平成二十六年十一月十二日から十四日にかけて秋田県秋田市の秋田県民会館を主会場に第五十八回全国保育研究大会が大変良い天候の中、約千五百の参加者を迎え入れ盛大に開催されました。大会日程とフライト便の關係で異常なほどに早い現着となりましたが、前泊をしたかのようなゆとりが生まれ余裕を持って会場入りする事が出来ました。

オーブニングは、秋田県内の保育所の子ども達による



「子ども竿燈(かんとろう)」。竿燈は、夏に行われる秋田市などにのせて豊作を祈ります。重要無形文化財に指定され、青森のねぶた祭、仙台の七夕まつりと並んで東北三大祭りのひとつとされているそう、子ども達の迫力ある演技に会場では拍手が鳴り止みませんでした。

その後、式典が開会され、開催地の保育協議会会長の挨拶、児童憲章の朗読、物故

者への黙とう。主催者である全保協会長などからの挨拶の後、来賓者からの祝辞がありました。

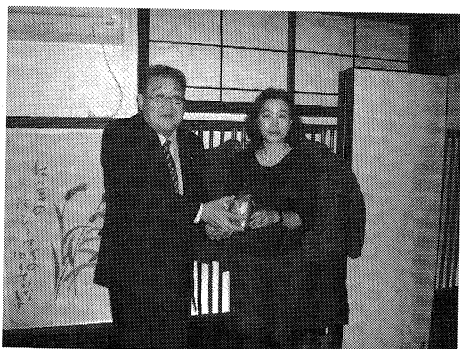
続いて、表彰が行われ、会長特別感謝を含め全国で二百五十八名の方が表彰され、神奈川県からは萩原理事長を含めて六名の方々が荣誉ある会長表彰を受けてその功績が称えられました。式典の最後には、大会宣言が読み上げられ、参加者の熱い拍手により採択され開会式が滞りなく終了致しました。

その後、厚労省保育課の幼保連携推進室長より子ども・子育て支援新制度等についての行政説明と全保協会長より全保協の取り組みなどの基調報告がなされ、一日目が終了致しました。

二日目は、夕刻にあられが降るほどの寒さと悪天候の中、全十一の分科会を五会場

に分け、各会場で白熱した研究発表などが行われました。最終日の三日目も寒さと生憎のお天気でしたが、記念講演と次回開催地の山口県からのあいさつが行われ、無事に全ての日程が終了しました。

なお、帰路の旅もフライト便の關係により秋田空港で四時間を過ごし、偶然にも全保協会長と全保協事務局の方と同便で羽田に戻って来ました。



第十分科会

『子ども・子育て支援新制度とこれからの保育』

第一部は、厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課より

「社会福祉法人制度改革について」行政説明があった。

第二部は、全国保育協議会 佐藤秀樹副会長より

「子ども・子育て支援新制度の概略と今後の事業運営」という表題で子ども・子育て支援新制度において、確保・拡充の実現が求められることについて、今後の事業運営として「保育所として」、「認定こども園へ移行する」場合に求められることと、国の動向を含めての報告があった。

第三部は、パネルディスカッション「子ども・子育て支援新制度とこれからの保育」として大阪府、相模原市、福岡県、青森県の各保育所の取り組みの発表があった。大阪府では、これまで各保育所に

地域貢献支援員「スマイルサポーター」を養成し、活動してきたが、平成二十七年より社会福祉法人（高齢者施設・障がい者施設・保育施設を運営）全体で「社会貢献事業」に取り組むとのことでした。

より良い保育環境づくり

平成二十六年九月十九日、産業貿易センターにおいて「より良い保育環境づくり」というテーマで研修会が開催されました。

講義一では、社会福祉法人唐池学園ドルカスベビーマム園長摩尼昌子氏に「にやりほっと」について講演を



いただきました。

「にやりほっと」とは、日頃仕事をするうえで、大人に対して「にやりした」「ほっとした」「いいな」と感じた場面を探すものです。そのような場面を書き出してみると、職員同士の連携の場面で、「にやりほっと」したと感

じることが多くあることが分かりました。子どもと関わっていてどうしようかと思ったり、他の職員からの協力は、その職員のサポートになり、それが職員同士の連携になります。そばにいたり、話を聞いて共感してくれたり、励ましてくれる情緒的サポートがあると、悩んでいる職員の救いになります。職場の雰囲気も良くなります。

実際に「にやりほっと」についてのアンケートを行ったところ、「以前に比べると、大人同士が声を掛け合うことが多くなりました。『ありがとう』という言葉も増えたように思います。それによって、職場の雰囲気も良くなり、とても気持ちよく、子どもにとっても良い影響があります。

す。」という意見がありました。子どもとのやり取りや職員間のサポートなど、お互いの良い点を認め合うことで、「にやりほっと」を探すことで、職員同士の連携がよくなり、保育がスムーズに進めていけると感じました。

講義二では、「今の保育士状況と期待していること」について、白峰保育園長亀谷美代子氏にご講演いただきました。



「子どもを産み、育てやすい社会の創設」を目的とした「子ども・子育て支援法」が制定され、大きなポイントの一つとして、保育の量的拡大・確保があります。昨年度四月一日現在の全国待機児童数は、二万二千七百四十一人でした。

就学前児童の保育所利用率は三十五%で、今後は四十%になるといわれています。しかし、それに対して、保育士が足りない現状があります。養成校を卒業しても保育士として就職していか

ず。結婚・出産を機に退職したり、七十万人いるといわれています。潜在保育士の就職していない主な理由としては、①賃金が希望と合わない②責任の重さ③健康・体力の不安が挙げられています。現在、専門職としてのさらなる保育士の資質向上が求められ、それに伴い、養成校でも科目数・授業数が増えています。

「子どもの最善の利益」という保育理念がすべての保育施設の保育の現場で実現されるのが大切です。現在そして未来の子ども・保護者・社会にとって専門職の保育士が必要なのです。保育士としてさらなる質の向上を目指して励んでいきたいと思

第二十七回

保育の日前夜祭

平成二十六年十二月五日、

横浜ベイシエラトンホテルに

おいて、第三十七回「保育の

日前夜祭」が開催されました。

当日は、長年にわたり子ど

も達の育成に多大の貢献をな

され、本年度の栄を受けられ

た受賞者の皆さまをお招きし、

保育関係者が一堂に会して、

お祝いをしました。また、日

頃より保育に携わる皆さまの

労をねぎらい、今後も保育事

業のより一層の進展に資する

ことを確認しました。

全国で唯一の「保育賞」は

神奈川県独自の褒章制度で、

記念すべき五十回目の表彰に

なります。

宮田副理事長の「開会のこ

とば」に続き、萩原理事長よ

り受賞者にお祝いの言葉が述

べられました。

保育会ではすっきりおなじ

み



みのマスコットキャラクター
「かなわん」と共にステージ
に上られた、次の九名の方々
に萩原理事長より花束が贈呈
されました。

神奈川県保育賞
厚木市 (愛歩保育園)
海老沢 由美子様
三浦市 (三崎二葉保育園)
坂本 美知代様

横須賀市(三和保育園)
松本 美津江様
厚木市(妻田保育園)
目代 ルミ様

叙勲

平塚市(元金田保育園)

石山 みよ子様

秦野市(元南秦野保育園)

及川 幸子様

厚生労働大臣表彰

三浦市(上宮田小羊保育園)

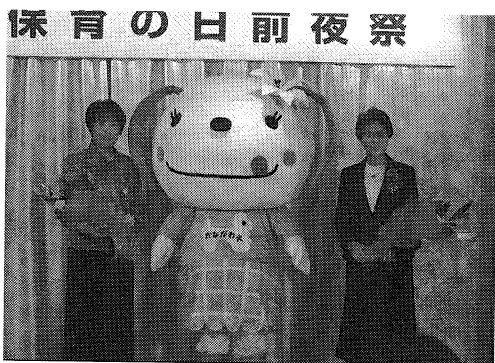
大川 昌美様

開成町(酒田保育園)

椎野 奈緒子様

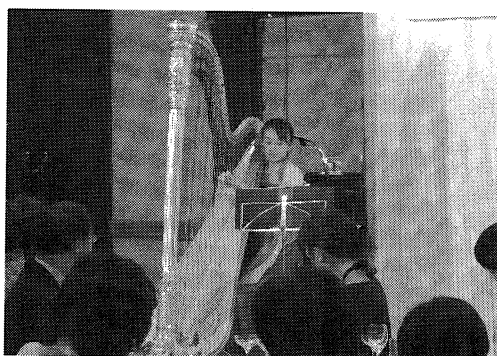
平塚市(真土すばる保育園)

森蔭 敏子様



以上の皆様方受賞おめでとう
ございます。心よりお祝い

申し上げます。受賞者の方々
からは、保育士という仕事に
対しての愛情溢れるごあいさ
つをいただきました。



ご臨席いただいた保育関係
者の方々からも心温まるお祝
いや励ましの言葉をいただき
ました。その一つひとつの言
葉は重みを感じ、心に響くも
のでした。

懇親会は宮田相談役の乾杯
のご発声で和やかに始まりま
した。

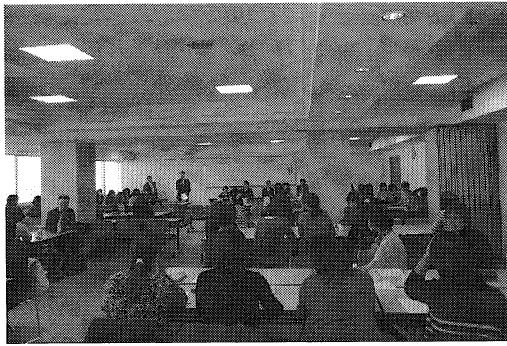
ハープ演奏に感激され、「
ぜひ、子どもたちや、日々忙
しく過ごす母親たちに、この
ハープの音色を聴かせてあげ
たい。自然と涙がこみ上げて
くるほど、素晴らしい演奏な
ので演奏を聴いた子どもたち
は、いい子に育つ。」とお言葉
をいただきました。

和やかで暖かいな雰囲気
で、参加者の親交を深めること
ができ、終焉を惜しまれながら、
閉会となりました。



第二回保育園利用者 相談室研修会

平成二十七年一月十九日
(月)午後一時三十分より平
成二十六年第二回保育園利
用者相談室研修会が横浜市
区にある万国橋会議センタ
ーにて開催されました。



最初に主催者を代表して、
保育園利用者相談室運営委員
長の伊澤先生より「保育園利
用者相談室では、年間二回研
修を開催していて、第一回が
座学中心、第二回がグループ

討議を中心に行っている、

「今回を機にもう一度利用者
への対応を見直し、保育サ
ビスの質の向上を図ってほ
い」という主旨のご挨拶があ
りました。

その後、今回お世話になる
五名の第三者委員の先生方
(小林育子先生、草光純二先
生、祖父江照男先生、宮田丈
乃先生、小川晃先生)の紹介
がされました。その後、八つ
のグループに分かれてグルー
プ討議を行いました。

テーマは七つ、「虫刺されに
ついて」、「保護者間のLINE
Eについて」、「保育士への苦情
」「けがの対応」、「騒音」、「近隣
トラブル」、「公園でのトラブル」
以上について一題は指定、も
う一題は自由選択で話し合
いました。最初に各グループ、
司会・記録・発表担当を決め、
その後およそ一時間三十分の

グループ討議を行いました。

発表はグループ毎に五分程
度ずつ行いました。どのテー
マも特殊な事例ではなく、ど
この園でも起こりうる可能性
があるもので、参加者の皆さ
んは各グループの発表に真剣
に耳を傾けていました。

全てのテーマを通して、発
表者から頻繁に聞かれたのが
「日頃からのコミュニケーション
」「相手の立場に立って考
える」というキーワードでし
た。苦情があるということは
そこに思いが存在する。それ
に気づき、寄り添い、丁寧に
対応していくことが必要だと
感じました。



次に第三者委員の先生方よ
りアドバイスをいただきました。
た。

「こちらから声をかける。換
拶をする大切さ」、「職員全体
で常日頃から苦情対応につ
いて勉強をしていく。様々なシ
チュエーションに対してシミ
ュレーションをするのも良
い」、「苦情が寄せられた時は、
迅速に、誠実に対応をする」、
「園とのつながりが薄いと感
じる保護者には特に意識的に
関わっていくことが必要」、
「苦情をサービスイノベーション
トとして前向きに捉える」、
「保育園の立場や保育者の立
場だけでなく、保護者の立場
にたって考えることも必要」、
「人間関係は対面して、関わ
り合う中で最も育つものでは
ないだろうか」、「公園での地
域の親子への関わりについて、
「子どもは子ども同士みんな
で遊んだ方がいい」という価
値観の押しつけがないか?」、
「保護者は子どもとは違う存
在であるという認識を持つ」、
「保護者の言葉の裏にある真
意をくみ取る力をつけてほ

しい」等、多くの貴重なアド
バイスをいただきました。
最後に第三者評価に関して、
神奈川県社会福祉協議会より
事業者説明会(保育分野)の
ご案内があり閉会しました。

今回研修に参加して、子ど
もたちや保護者、地域住民な
ど、保育園を中心に関わりの
ある方々と日頃から積極的に
関わることの大切さ、そして
苦情に対応する時はそのこと
だけを注視するのではなく、
そこに至る過程や背景も考え
る必要があることを痛烈に感
じました。



保育所食育研修会

平成二十七年一月二十九日に神奈川県民ホールにおいて、保育所食育研修が開催されました。

今回は栄養士でフードコーディネーターの森野恵子先生に、「食育く保護者の役割を考える」をテーマにご講演をいただきました。



幼児期は食育に最も適した時期です。子ども自身に、食べる力の基礎を養いたい時期でもあります。幼児期の食生活はその子の一生の味覚、好みをほぼ決定つけるでしょう。又、その人の一生の食べ方、

食習慣、おいしさを感ずる五感の基礎を築き上げる時期でもあります。この時期に、何をどれだけどのように食べていたかの体感が習慣になり、くせづき、心の基礎も育ち、その人の人間形成へとつながるのです。その子ども自身の食の判断のものさしができる、大事な時期なのです。

食は暮らしの中で自然と伝えられてきました。しかし現在は、意識して伝えないと伝わらない時代になってしまいました。食事というのは生命維持のための栄養を補うだけでなく、心の精神的安らぎも補うものです。家族が会話をしながら楽しい雰囲気の中で、季節の食材を感じながら、みんなで同じ物を食べ、食卓を囲む事ができれば、食に対する関心も必然的に高まるでしょう。しかし、現在は親の働き方が忙し過ぎる為、簡単な調理で済むものや、調理された

物などで食事を済ましてしまう事が多いのです。食事のバランスのとれた一汁三菜のメニューが食卓にのるのがむずかしくなっています。では保育園では、どのようにして食育の推進をしていくと良いのでしょうか？



年間をとおして食に興味や関心をもてるのが大事で、大変にならず継続できることが望ましいのです。「見る・匂いを嗅ぐ・さわる・聞く・味わう」などの五感の体験を沢山

経験させることが効果的です。「箱の中身はなんだろう」では、旬の野菜や給食の食材を入れ感触で食材をあてたり、紙コップにアルミホイルをかぶせ、小さな穴をあけて匂いを嗅ぎコップの中身を考えた一汁三菜の配膳をお当番でしたり、野菜作りから収穫調理など、方法は構えなくとも沢山あります。

又、保護者への発信も大事な意味をもちます。「保護者に伝えたい食育7か条」・朝ご飯を食べる・一緒に食べる、会話をする・献立は大人が決めるもの・日常と非日常(パーティー)の食事をわける・子どものお手伝いをつくる・食べる分だけ作って残さず食べる・子どもと一緒に考え、味わう、感動するなどです。

保育士自身が食に感動し、その気持ちをもそのまま素直に子どもたちに伝え、園での食育への取り組みを興味深く保護者に伝える事ができれば、きっと子どもたちを取り巻く食の環境は改善されていくのだと思います。

編集後記

四月よりスタートをする子ども子育て支援新システムの準備をしなければいけないのにまだに何を準備すればいいのか分かっていないのが現状です。自園の事業計画は作成できたのだが、予算案はいまだに不透明なところがあり作成できずにいます。

皆さんはこの状況下の中で、いかに二十七年度を見据えていらっしやるのでしょうか。

会員園の一人として今後も皆様に少しでも情報提供が出来るよう頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともご指導よろしくお願いいたします。最後に、この機関誌は、共同募金配分金により発行しています。

